



## 肺血栓塞栓症予防管理料算定率

### <項目解説>

肺血栓塞栓症は血栓（血のかたまり）が肺動脈に詰まり、呼吸困難や胸痛を引き起こす疾患であり、程度によっては死に至る場合もあります。エコノミークラス症候群も肺塞栓症の一種ですが、長期の臥床や骨盤部の手術後に多く発症します。

入院中においては、適切な診療によってかなりの部分が予防可能で、リスクレベルに応じた予防法（弾性ストッキングまたは間歇的空気圧迫法等）が推奨されており、当院でも発生率の低下への取り組みを行っています。

### <当院の実績>

【平成25年度】	23.5%	(3,165 / 13,460)
【平成26年度】	22.2%	(3,001 / 13,532)
【平成27年度】	20.8%	(3,010 / 14,491)
【平成28年度】	21.2%	(3,088 / 14,566)
【平成29年度】	21.4%	(3,151 / 14,706)

### <当院の自己点検評価>

当院では平成17年より、術中・術後のリスク別標準予防法に照らし合わせ、弾性ストッキング、IPCポンプ（間歇的空気圧迫法）を選択し使用してきました。また、平成21年より肺血栓塞栓症深部静脈血栓症予防ガイドラインを制定し、周術期の肺血栓塞栓症予防を先行して実施しております。

現在は、一般外科、泌尿器科、産婦人科、整形外科、脳神経外科の手術患者を中心に、弾性ストッキング・IPCポンプを使用している肺血栓塞栓症予防の対策をとっておりますが、今後は内科・精神科領域の範囲にも広めていく予定です。

### <定義>

- ・算式のとおり

### <算式>

分子：「B001-6 肺血栓塞栓症予防管理料」算定数

分母：期間内の退院患者数

基礎データと解析：厚生労働省提出データ（EFファイル）